



群馬大学大学院 保健学研究科

GUNMA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF
HEALTH SCIENCES

2023



保健学研究科長挨拶



横山知行
保健学研究科長

大学院保健学研究科は保健学の研究を行い、高度な保健医療人に加え保健学研究者と教育者を養成するために、2011年度に大学院医学系研究科から独立しました。博士前期課程と後期課程で構成されています。

少子高齢化社会となった我が国においては、社会構造や生活習慣の変化に伴い、疾病・障害の構造が大きく変化するとともに、新たな保健医療問題が多数生じています。また、国民の健康志向が高まり、生活の質の向上や健康寿命の延長が求められています。こうした人間の健康を維持するための取組みは、病気の解明や新しい治療法の開発のみでは達成できません。その理由は、人々の健康が社会・政治・経済状況、地域性、さらにケアに携わる様々な医療人の資質に大きく左右されるからです。保健学は、健康な生活に向けた統合的なアプローチを行い、健康な人たちで構成される地域社会を目指す学問と考えられます。

一方、国際社会においては保健人材の不足が深刻化しています。国連やWHOは、AIDS等の感染症の撲滅や周産期・小児期死亡率の低下に向けた世界的な取組みを行っており、質の高い保健人材育成をはじめとした保健システムの強化を求めています。

こうした社会的要請に応えるため、博士前期課程では研究対象課題によって「基礎保健学ユニット」、「応用保健学ユニット」、「地域・国際保健学ユニット」を配置して職種横断型かつ全人的アプローチの研究・教育体制を構築しました。博士後期課程では、専門領域の研究を深化させるために、職種に応じた3領域「看護学領域」、「生体情報検査科学領域」、「リハビリテーション学領域」に分けたカリキュラムを組み立てています。こうして、全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を持つ保健学研究者・教育者そして実践者の養成を行っています。

本研究科では、既に医療・保健の分野で活躍されている方々が、現場で直面する様々な問題を研究課題として取組む地域密着型の研究体制を構築しています。これは、2007年度に『文部科学省大学院GP』として高い評価・支援を受けて始めた「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」事業を基盤としています。この地域交流に基づく教育は、『教育GP』として支援を受ける学部教育と合わせて、学部・大学院の一貫した教育システムとなっています。また、先進的チーム医療教育の実績は国際社会から高い評価を受け、2013年にWHO協力センターに指定されました。チーム医療教育に関する研究、アジア地域の教育者・実践者への指導・トレーニングおよびガイドラインの開発などを積極的に進めています。さらに、がん看護、老人看護、慢性疾患看護および母性看護専門看護師養成コースや、指導的臨床研究コーディネーター（CRC）の育成を行うCRC管理者養成コースも開設しています。2014年度には、『文部科学省GP：課題解決型高度医療人材養成プログラム』の優れた取り組みとして「群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー」事業が採択されました。超高齢社会において「地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護」が提供できる人材養成を全国に先駆けて行っております。

こうした具体的な成果を基に組み立てられた教育システムで、社会の要請に対して真摯に耳を傾け、新たに生まれる課題に柔軟にそして創造的に対応する能力を養う意欲のある皆様の入学を期待しています。

コンテンツ

大学院生からのメッセージ

修了生からのメッセージ

博士前期課程の特徴

博士前期課程各ユニットの特色

専門看護師（CNS）プログラム

専門職養成プログラム

博士後期課程の特徴

博士後期課程各領域の特色

所属教員と研究テーマ；

看護学領域

生体情報検査科学領域

リハビリテーション学領域（理学療法学）

リハビリテーション学領域（作業療法学）

出願から修了までのプロセス

就学支援・教育支援・修了後の進路

入試日程・募集人員

アクセス・問合せ

- 1 教育と合わせて、学部・大学院の一貫した教育システムとなっ
- 5 ています。また、先進的チーム医療教育の実績は国際社会から高い
- 7 評価を受け、2013年にWHO協力センターに指定されました。
- 8 チーム医療教育に関する研究、アジア地域の教育者・実践者への
- 9 指導・トレーニングおよびガイドラインの開発などを積極的に進
- 11 めています。さらに、がん看護、老人看護、慢性疾患看護および
- 12 母性看護専門看護師養成コースや、指導的臨床研究コーディネー
- 13 ター（CRC）の育成を行うCRC管理者養成コースも開設してい
- 14 ます。2014年度には、『文部科学省GP：課題解決型高度医療人
- 17 材養成プログラム』の優れた取り組みとして「群馬一丸で育てる
- 19 地域完結型看護リーダー」事業が採択されました。超高齢社会に
- 20 において「地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護」が提供で
- 21 ける人材養成を全国に先駆けて行っております。
- 22 こうした具体的な成果を基に組み立てられた教育システムで、
- 23 社会の要請に対して真摯に耳を傾け、新たに生まれる課題に柔軟
- 24 にそして創造的に対応する能力を養う意欲のある皆様の入学を期

大学院生からのメッセージ

看護学領域



博士前期課程

看護師長としてデータ及び根拠をもって看護管理を行っていききたい



齋藤 洋子さん
指導教員：恩幣 宏美

大学院進学の動機

新卒で手術室に勤務後、異動した看護師が病棟での看護実践に不安を持ったため、慣れるまでに苦勞することがあります。そこで、手術看護を実践してしてきた看護師がその経験を活かし、異動後の病棟で活躍できるよう看護管理者としての支援を研究したく、進学しました。また、看護師長としてスタッフの研究指導が行うための知識とスキルも学びたいと考えています。

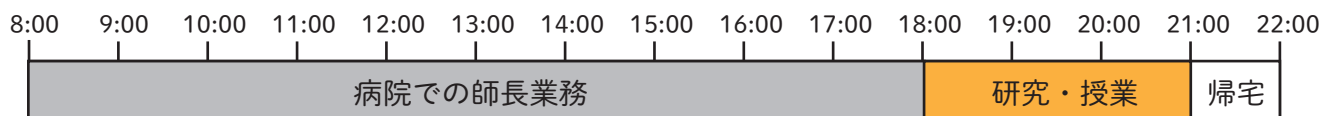
大学院進学後の生活

入学後も附属病院での師長業務を継続出来ています。具体的には8時から業務調整やスタッフ対応などの師長業務を開始し、会議や委員会活動を含めて17時過ぎまで業務に従事しています。その後、大学院生として、平日は18時からオンラインの講義や演習、週末は集中講義や研究活動に参加しています。

将来の目標

私は附属病院で看護師長として勤務していますので、修了後はスタッフに対して日々の看護実践に活かせるための研究指導を行う予定です。また、私は手術看護認定看護師でもあるため、今までのスペシャリストとしての実践を、研究論文を通して伝達する取り組みにもチャレンジしたいと考えています。

スケジュール



博士後期課程

医療現場や患者に還元できる研究成果を挙げることを目指しています

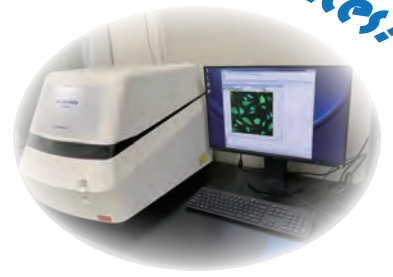
私は、博士前期課程の研究から得た示唆をもとに開発した慢性腎臓病患者向けeラーニングに関する研究を、学術的に論述する知識や方法を習得するために、博士後期課程に進学しました。入学後は、国内外の論文精読による読解力と考察力の習得、患者教育に関する最新情報と課題の把握、英語論文の執筆方法などについて学び、海外学術雑誌への掲載論文を執筆しました。現在は、大学教員として学生教育を行いつつ、高齢化に伴う通院負担の増大や医療偏在の解決策として期待が高まる、遠隔医療を支える患者教育アプリの開発に取り組んでいます。今後は学生と一緒に、医療現場や患者に還元できる研究成果を挙げることを目指していききたいと思ひます。



高橋 さつきさん
指導教員：岡 美智代

大学院生からのメッセージ

生体情報検査科学領域



博士前期課程

“吃音の研究”と“治験の勉強” どちらも充実しています



阿部 千怜さん
指導教員：豊村 暁

大学院進学の前

学部の卒業研究では、吃音（どもり）に関わる脳活動をテーマに行いました。吃音は、成人の1%を占めるとされながらも、メカニズムが分かっていません。世界では感染症やがんの研究が盛んな一方で、こういった日常生活を困難にする障害についても目を向けることの重要性を感じ、大学院でも研究を続けたいと思いました。

大学院進学後の生活

授業が始まる18時までは研究を行います。研究でMRIデータの解析を行うため、データの処理・統計手法を学んだり、論文を読んだりする時間が多いです。また、現在東北大学加齢医学研究所と共同研究を行なっています。バックグラウンドの違う先生方の意見にはいつも刺激を受けますし、より良い研究に繋がっていると実感しています。

将来の目標

学部の頃から治験に興味があったため、大学院では治験を学ぶコースを受講しました。新薬の開発、治験、承認されるまでの仕組みやそれに関わる職種など多くを学ぶことができました。卒業後数年は臨床検査技師として働き、医療現場の実際を学んだ後に、その経験を生かして治験に関わる仕事をしたいと考えています。

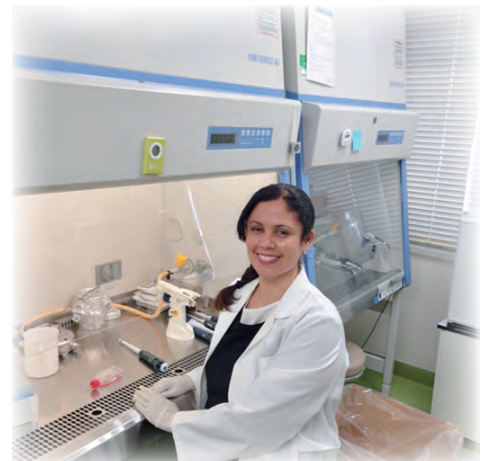
スケジュール

8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
			研究	休憩		研究・授業	休憩		授業				帰宅	

博士後期課程

学んだ知識を母国の研究者と共有し、世界中にネットワークを広げたい

SATREPS-Chagas プロジェクトのリーダーである嶋田教授の指導のもと、研究のスキルや知識を高めたいと考えて群馬大学に留学を決めました。私が参加している本プロジェクトの目標の1つは、シャーガス病を理解するために、エルサルバドル国の研究者にこの研究分野の技術を提供することです。シャーガス病は「*Trypanosoma cruzi*」という寄生虫により引き起こされ、中米で何百万人もの人々を苦しめている感染症です。私は新規化合物の抗原作用を明らかにするために、*in vitro* および *in vivo* のアッセイ系を用いて解析しています。帰国後も、他の研究者と協力して研究を続け、群馬大学で学んだ知識を共有し、この分野に貢献したいと考えています。



Tatiana Ascencio さん
指導教員：嶋田 淳子

大学院生からのメッセージ

リハビリテーション学領域（理学療法学）



博士前期課程

理学療法士として自信をつけながら、一人でも多くの人の役に立ちたいです



千葉 朱莉さん
指導教員：白田 滋

大学院進学 of 動機

大学生のときに理学療法の基礎となる内容を学んだものの、実際に臨床でどのように活用していけばよいのか、自分がどんなセラピストになりたいのか、具体的な将来像が湧いていないと感じたのがきっかけです。新型コロナウイルスの影響で予定していた卒業研究ができなかったこともあり、大学院に進学して様々な経験を積んできた方々と関わりながら、研究者という視点からも臨床を見ることができるようになりたいと思いました。

大学院進学後の生活

週4～5日病院で勤務し、夜間に大学院の講義を受けています。職場では月に2日程研究日をいただいています。初めは多忙な日々慣れず苦労しましたが、今は大分肩の力が抜け、無理せず自分のペースで研究や勉強を進められています。忙しくても自分の趣味を我慢しないことでこの1年でメンタルコントロールができるようになったと感じます。まだまだ未熟ですが、仕事・研究・趣味、どれも大事にしていきたいです。

将来の目標

近い目標としては、大学院で得た知識や考え方を生かしてエビデンスに基づいたアプローチができるようになりたいです。将来は地域理学療法にも関わってみたいですし、スポーツリハにも少し興味があります。もっと言うのであれば得た経験を活かしながら少し違った分野にも触れてみたいです。模索中ではありますがまずは目の前の患者さんを少しでも良くできるよう、多角的な視点から診ることができる理学療法士を目指しています。

スケジュール

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
平日		病院での勤務			休憩	病院での勤務				講義		帰宅			
休日		研究活動			休憩	講義・演習				自由時間		研究			

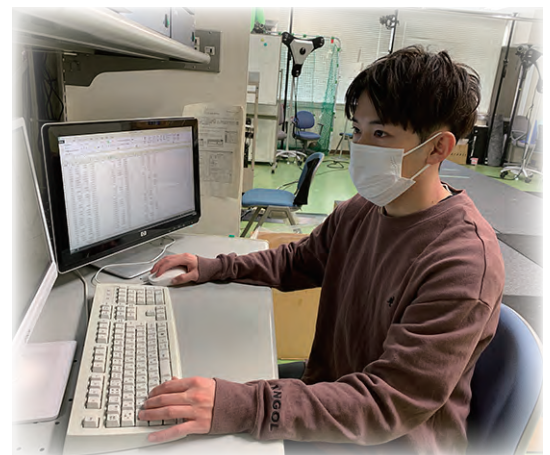
博士後期課程

研究者として自立し、社会に貢献したいと考えています

博士前期課程で、研究の進め方や考え方など、一通りの流れを学ぶことができました。今度はそこで得た知識を元に1人の研究者として、社会にとって利益となるようなものを生み出したいと考え、博士後期過程に進学をしました。

現在は働きながら大学院に通っているため、普段の仕事終わりの時間や、休みの日を使って自分の研究活動を進めることが多いです。コロナ禍で上手く進まない場面も多いですが、それでも可能なことを見つけ、少しずつ進めています。また、少しですが学部生の授業に関わらせていただくことで、教育の分野も学ばせていただいています。

修了後は、臨床や現場で問題となっていることを見つけ、自主的に研究計画を立て、解決できる様になりたいです。



和田 直也さん
指導教員：坂本 雅昭

大学院生からのメッセージ

リハビリテーション学領域（作業療法学）



博士前期課程

研究と臨床を通して自分の能力を高め、社会に還元していきたいです



井澤 孝泰さん
指導教員：李 範爽

大学院進学の本機

将来を考え自分の市場価値を高めていく必要があると思っていた際、尊敬している方々から良い刺激を受けながら研究できる環境を魅力的に感じ、進学を決意しました。また、学部時代に原著論文を正確に読み解けなかった苦い経験があり、論文抄読を正しく行って批判的吟味をする能力を養わなければと危機感を抱いたこともきっかけの一つです。

大学院進学後の生活

市内の病院にて週4～5日で勤務しています。夜間や休日は受講や研究活動に励んでおり、職場の方々のご協力があり、集中講義も問題なく受けられています。行き詰まる時もありましたが、教授や先輩方が進んで相談に乗って下さり、活路を見いだすことができました。臨床との両立が大変ですが、どちらも疎かにならないよう気を付けています。

将来の目標

まずは、大学院で培った情報収集能力等を生かして目の前の臨床に励み、より患者様に貢献できる職業人になりたいです。長期的なキャリアはまだ葛藤がありますが、自分で学術的な問題解決が行え、他者にアウトプットすることで保健医療に貢献できるような人材になることが夢です。

スケジュール

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
平日		病院での勤務			休憩	病院での勤務			移動	研究・授業		帰宅			
休日	自由時間					研究・臨床に関する自己学習									

博士後期課程

作業活動時の脳機能にかかわる臨床家、もしくは作業療法の教員・講師を目指します

まず博士後期課程に進学しようと思った理由は、fNIRSを用いた研究に強い興味を持ったからです。前期課程の二年間で、得た知識や経験をもとに、より高いレベルでの研究を行いたいと思い、進学を決意しました。

現在は後期課程での研究に向けた準備を進めています。普段は作業療法士として病院で勤務しているため、業務終わりや休日等を利用して、fNIRSの機器操作や実験手順の確認をしたり、研究を共同で行う事業所の方々と連絡を取っています。

後期課程を充実したものにするために、日々の業務計や研究を具体的かつ計画的に進めていきたいと思っています。研究と業務の二足のわらじで忙しくなるとは思いますが、その反面充実した毎日になるよう頑張りたいと思っています。



西沢 祐亮さん
指導教員：菊地 千一郎

修了生からのメッセージ

OB/OG
message!

看護学領域



野村 亜矢さん（右から二人目）

獨協医科大学病院看護部

がん看護専門看護師

2015年博士前期課程修了，指導教員：二渡 玉江

問題解決困難事例の多職種カンファレンスの場面。問題の内容に合わせて関係職種が参加して行っています。今回は専門看護師（筆者）の他・がん化学療法看護認定看護師・薬剤師・総合がん診療センター事務員と検討会を行っています。

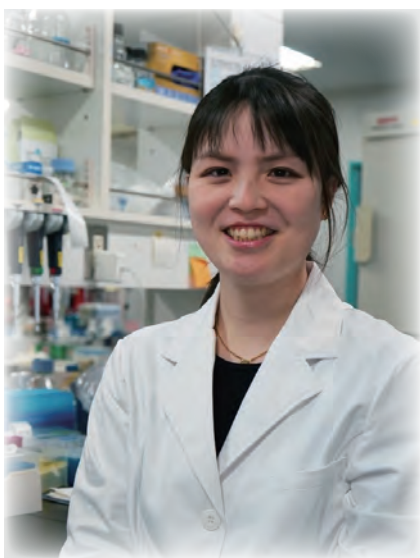
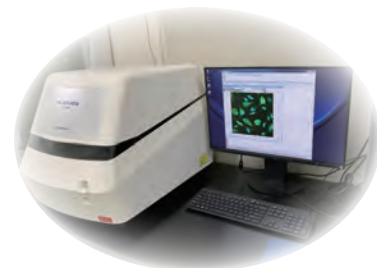
大学院での生活や研究テーマについて

「がん患者さんの希望に寄り添った看護をしたい」と決意し進学しました。どの講義も実践的で、看護の深さを感じることができた濃厚な2年間でした。研究は、肺がん手術後の患者が身体症状にどのような折り合いをつけ過しているかを質的に分析しました。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

がん看護専門看護師を取得後、現在はがん告知の場面や治療方針検討の場面に同席し、告知後の精神的サポートや意思決定支援に携わっています。がん治療にどう向き合うか、その重大な局面を迎える患者さん・ご家族の思いを汲み取り、外来・病棟の看護師や医師等と連携を図りながら皆で支えていけるよう、その土台を構築する役割を担っています。大学院で学修した専門的知識や技術を、他職種との調整や相談等で発揮することで、よりがん患者さんの希望に添った看護支援に繋がっていると実感しています。このような役割が果たせることや継続して学ぶ意欲・探究心を持ち続けられることは、大学院で培った経験が原点となっています。

生体情報検査科学領域



古川 希さん

名古屋大学大学院医学系研究科

総合保健学専攻オミックス医療科学

病態情報科学講座 助教

2017年博士前期課程修了，指導教員：横山 知行

大学院での生活や研究テーマについて

高校生の時に医療ドラマにハマリ、心臓の研究をしたいと思い、大学院では循環器内科の先生とも連携しながら、日々研究に明け暮れました。研究テーマは糖尿病治療薬の心不全への効果についてそのメカニズムを研究しました。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

学部生から今に至るまで自分の中のルールとして「どんなことも分からないことは必ず先生に聞く」を徹底していました。自分で「なぜこのような結果になったのか」「これはどのような分子機序か」など疑問はまず自分で調べて、それでも分からない場合は必ず先生方に質問して解決しました。現在、名古屋大学で教員生活を送っていますが、この習慣は教員となった今ではとても大切で、自身で考える研究テーマについて、色んな先生方とのディスカッションで新たな視点が浮かび、研究がより面白いものになっていく過程に毎回感動を覚えます。大学院で培った「自分で考え、自ら発信していく力」、今まさにその大切さを学生の皆さんに教えているところです。

修了生からのメッセージ

OB/OG
message!



リハビリテーション学領域（理学療法学）



平賀 椎羅さん
本庄総合病院 理学療法士
2022年博士前期課程修了，指導教員：坂本雅昭

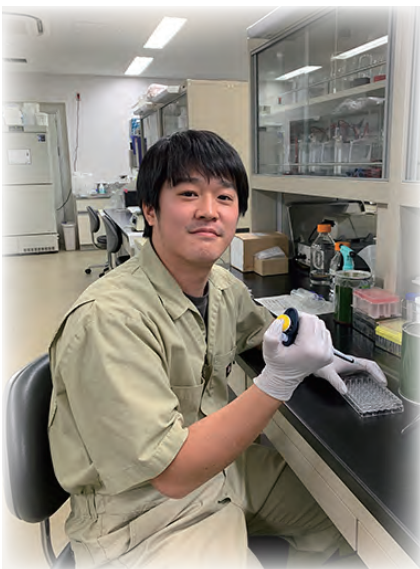
大学院での生活や研究テーマについて

「バッキング動作時の腰椎側屈角度と垂直跳び動作の関連」をテーマに活動を進めておりました。平日は理学療法士として日中臨床業務を行い、夜間に講義やゼミに参加していました。休日は研究活動中心で、論文の検索やデータ測定を行っていました。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

知識・技術を深めるにあたり、2つの利点がありました。1つ目は、自らの研究活動や講義を受けることで、論文の検索やより正確な情報収集を行うことができるようになったことで、2つ目は研究室のメンバーや先生方と深く関わるため、学外も含め様々な場面の活動機会をいただくことができ、多くの経験を積めたことです。大学院は研究のイメージが強いですが、決してそれだけではなく、非常に多くのチャンスを提供することができ、現場で活かせるスキルも身につけることができました。その結果、今までよりも深く専門性を磨くことができ、臨床現場における患者様への治療クオリティの向上に繋がっております。

リハビリテーション学領域（作業療法学）



廣田 湧さん
日本学術振興会 特別研究員 PD
(国立長寿医療研究センター 神経遺伝学研究部)
2017年博士前期課程修了，指導教員：三井 真一
2020年博士後期課程修了，指導教員：三井 真一

大学院での生活や研究テーマについて

大学3年時の高次脳機能障害学という講義で脳の機能や行動を司るメカニズムに興味を持ったのが、大学院進学のかっけです。卒業研究から継続してモデル動物を用いた研究を行い、雌雄のつがいを形成した経験が恐怖反応やストレス応答性を軽減するという現象を明らかにしました。この研究に関して、民間財団からの研究費獲得や国際学会での発表を経験することが出来ました。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

大学院では研究室での進捗報告や申請書の作成、学会発表と自分の研究を他の人に伝える機会が多くあり、分かりやすく伝えることは、それだけ知識も必要ですし、自分で理解していないと出来ないことで、準備や実際に伝えることは大変でしたが、とても良い経験になりました。私自身、研究者としてスタートしたばかりでまだまだですが、研究費を獲得した際の申請書を作成した経験や業績は、現在の学振特別研究員に採用されることに繋がっています。大学院で味わった研究の楽しさと厳しさの両方を感じつつ、研究生活を楽しまたいと思っていますし、これから大学院に進もうと考えている人もチャレンジして欲しいなと思います。

博士前期課程の特徴

近年、グローバルな感染症の拡大、高齢化社会、生活習慣病、医療者の地域偏在など、人々が健康を維持するための課題が急速に拡大しています。これらに対して、保健学研究科は人々の健康に対する保健システムの観点から健康を探究していきます。

博士前期課程では、保健学の基礎的な分野を扱う「基礎保健学ユニット」、保健学研究の成果を疾患治療に応用する分野を扱う「応用保健学ユニット」、そして地域の問題や国際的な分野を扱う「地域・国際保健学ユニット」の3ユニットが設置されています。学生は、「看護学領域」、「生体情報検査科学学領域」、「リハビリテーション学領域」の専門領域によって更に区分される9つの分野のいずれかに所属しますが、専門領域にかかわらず各ユニットのコア科目の履修が義務づけられており、職種専門領域を横断する教育システムによって保健学を包括的に研究することを当研究科の特徴としています。

その他に、がん看護、老人看護、慢性疾患看護および母性看護の専門看護師養成コースや、指導的臨床研究コーディネーター管理者養成コースも開設しています。

領域 ユニット	看護学領域	生体情報検査科学領域	リハビリテーション学領域
基礎保健学 ユニット	基礎看護学分野	基礎生体情報検査科学分野	基礎リハビリテーション学分野
応用保健学 ユニット	応用看護学分野	応用生体情報検査科学分野	応用リハビリテーション学分野
地域・国際 保健学 ユニット	地域・国際 看護学分野	地域・国際 生体情報検査科学分野	地域・国際 リハビリテーション学分野

教育ポリシー

1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

- 1 全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を有する人
- 2 専門分野での教育や研究を実践するための基礎的な能力を有する人
- 3 地域の保健医療・福祉専門職として活動が実践できる人
- 4 国際的な保健医療・福祉分野の活動が実践できる人

<入学者に求める能力・資質>

- 1 博士前期課程の学修に必要な学士レベルの知識・技能を有している人
- 2 研究活動に必要な論理的思考力、コミュニケーション能力、語学力を有している人
- 3 保健医療・福祉の分野で高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人
- 4 修了後に保健学専攻博士後期課程に進学し、保健学の研究者、教育者又は高度専門職業人を志す人

2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を修得する教育
- 2 専門分野の教育や研究を実践するための基礎的な能力を育成する教育
- 3 地域の保健医療・福祉専門職として活動が実践できる能力を育成する教育
- 4 国際的な保健医療・福祉分野の活動が実践できる能力を育成する教育

3 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

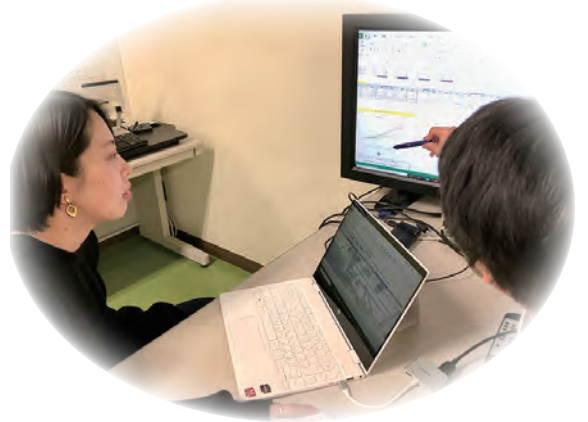
<学位授与の条件・達成度・能力評価の条件>

- 1 所定の年限在籍し、かつ、博士前期課程に定められた単位を修得した者
- 2 学部における教育・研究を通して得られた保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、独創的あるいは学際的な研究を進め、博士前期課程論文（修士論文）を作成した者
- 3 幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身に付けた者

博士前期課程各ユニットの特色

基礎保健学ユニット（基礎看護学分野／基礎生体情報検査科学分野／基礎リハビリテーション学分野）

保健学全般に共通する理論、技術の構築、開発と評価、さらに保健管理における諸課題を対象とした研究及び教育を行う。また、分子情報の解析などの検査技術の開発やリハビリテーションの対象となる生体運動・精神機能の分析方法などの基盤的保健学教育及び研究指導を行う。ここで扱う研究は保健サービスの人的あるいは物的な管理の向上、また保健課題に対する分析方法や、それから得られた情報の有効利用を目指すものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「サービスの提供」や「情報」に合致するものである。



応用保健学ユニット（応用看護学分野／応用生体情報検査科学分野／応用リハビリテーション学分野）

がん、慢性病、精神疾患や母性・小児疾患の看護やケア、心電図などの生理学的検査や病理診断技術、あるいはスポーツや作業活動に対するリハビリテーションなど保健学研究の成果を疾患・障害に対する治療に応用する分野の研究及び教育指導を行う。病を持つ人の適応、効果的な看護技術や効果的なリハビリテーション技術の検証と開発及び疾患検査法の開発などが含まれる。さらに、高度専門医療人である専門看護師（慢性疾患看護、がん看護、母性看護）及び臨床研究コーディネーター管理者の教育、養成を行う。ここで扱う研究は効果的臨床応用を目指して保健医療の知識・技術を高めるものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「医療技術」に合致するものである。



地域・国際保健学ユニット

（地域・国際看護学分野／地域・国際生体情報検査科学分野／地域・国際リハビリテーション学分野）

地域で生活する個人、家族、集団及び地域社会全体を対象とした保健学知識、技術に関する教育及び研究を指導する。また、国際保健学分野における諸課題を対象とした教育及び研究指導を行う。さらにチーム医療教育機関のネットワーク Japan Interprofessional Working and Education Network (JIPWEN) を活用し、国際的多職種連携医療教育を推進する。ここでは地域医療の崩壊に伴う諸課題を、地域から、そして国際社会の観点から研究するものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「保健人材」に合致するものである。またここでは、超高齢化地域の諸課題に対応する老年看護を実践する高度専門医療人である専門看護師（老人看護）の教育・養成を行う。



専門看護師（CNS）プログラム

<CNSとは？>

専門看護師〈Certified Nurse Specialist〉のことで、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して質の高い看護を提供するための専門分野の知識・技術を有する看護師のことです。

<CNSになるためには？>

看護師免許を有し、通算5年以上の実務経験（うち3年間以上は専門看護分野）、ならびに大学院博士前期課程での学修が必要です。その後、日本看護協会の認定審査を受けて合格すればCNSの資格が取得できます。

<群馬大学でもCNSの勉強ができるの？>

本学は群馬県で唯一CNSコースを有する教育機関であり、がん看護・慢性疾患看護・老人看護・母性看護の4つのコースがあります。すべてのコースは、専門看護師の発展型であるケアとキュアの融合を目指す高度実践専門看護師教育課程（38単位）を実施しています。CNS認定審査に合格した本学修了のCNSは、病院、診療所、在宅ケア施設等で活動すると共に、大学で講義を行うなど看護学の向上のためにも活躍しています。

CNSについては、こちらをご参照ください → <https://gununi.health.gunma-u.ac.jp/>



がん看護

がんとともに生きる人を支えるがん看護専門看護師を育成します



がん看護学専門看護師コースは、すべてのがん看護の基本となる「緩和ケア」をサブスペシャリティにしています。

これまでに27名の修了生を輩出、全員が最短で認定審査に合格し、県内外でCNSとして活躍しています。実習では、本学を修了したCNSの指導を受けた後、自施設での実習でもCNSの指導が継続して受けられるようにしています。本学CNS1期生の認定と同時に、群馬県がん看護専門看護師連絡協議会を結成し、事例検討、キャリアアップ、情報交換だけでなく、修了生の認定審査申請のサポートも行っています。

また、従来からのe-learningによる講義を推進するとともに、がんプロフェSSIONAL養成プラン採択事業として、新たにゲノム、小児・AYA・希少がん、がんライフステージ・QOLサポートなど専門家、教育リソースの少ない分野の教育を開始しました。2021年度までに、博士前期課程5名、博士後期課程2名の学生が修了しました。

慢性疾患看護

理論と実践を融合させながらパイオニアとして活躍する慢性疾患看護師を育成します



◆本学が目指す慢性疾患看護専門看護師とは？：外来、病棟、在宅などあらゆる治療環境において、慢性疾患とともに生きる人々に対して、健康増進、疾患管理、療養支援などに関する高度な看護を行う人材です。特に理論と実践の融合を目指し、根拠のある看護を行う看護師を育成します。

◆慢性疾患看護専門看護師コースの授業内容は？：糖尿病、腎臓病、循環器疾患など、生活習慣病を中心とした慢性疾患に関する講義・演習・実習を行っています。授業科目の概要は、慢性病者の理解に関する科目、慢性病者のアセスメントに関する科目、慢性病者への支援技術に関する科目、制度や体制に関する科目、治療や療養を支える治療環境整備に関する科目、実習の5本柱になります。

◆本学、慢性疾患看護専門看護師コースの修了生は？：病院施設での主任や教育担当、自分で起業したナース、大学教員など、医療施設や教育の場など様々な場所で生き生きと新たな道をパイオニアとして切り開きながら活躍しています。

専門看護師（CNS）プログラム

Certified
Nurse
Specialists !

老人看護

おたっしや社会をクリエイトする高齢者看護のスペシャリストを育成します



日本の高齢率は世界で最も高い水準にあります。本コースでは、サブスペシャリティを「認知症」と「在宅看護」とし、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続するための支援方法を学び、地域包括ケアシステムの中で活躍できる CNS の育成を目指しています。

実習は、病院、認知症専門外来、訪問看護ステーション、介護施設、在宅ケア機関など様々な場で行います。確かな業績と経験をもつ大学教員、老人看護 CNS、医師・薬剤師等他職種の専門家が指導にあたります。

2022年3月現在、12名の老人看護 CNS が本学から誕生しました。病院で高齢者の急性期治療や、退院支援に携わる者、施設で認知症高齢者の生活や健康を支える者、行政で介護予防などの相談業務に携わる者、訪問看護師として高齢者の安らかな最期を支える者、大学で教育に携わる者と、活躍の場と内容は様々です (bpsd.jp/ で検索)。あなたも群馬大学で高齢者に伴走する頼もしい CNS を目指しませんか！

母性看護

母性看護スペシャリストとして幅広く活躍する母性看護専門看護師を育成します



本学の母性看護 CNS コースは、母性看護のスペシャリストとして周産期のメンタルヘルスケア、ハイリスク妊婦・褥婦への高度なアセスメントと看護を得意とする CNS の育成を目指しています。

本コースは、「周産期母子援助」をサブスペシャリティとし、ケアとキュアを統合して複雑で解決困難な健康問題を持つ母子とその家族への高度な看護実践ができる母性看護 CNS を育成する教育プログラムを展開します。教育内容は、①母性看護分野の専門能力を強化する科目（講義：母性看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）、②母性看護 CNS の実践能力を強化する科目（講義と演習：母性看護学特論Ⅳ・Ⅴ、母性看護学演習Ⅰ・Ⅱ）、③母性看護の現場で母性看護 CNS の実践能力を養う科目（実習：母性看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の3つの柱から構成されています。

本コースの修了生は、病院施設で師長や主任、教育担当、メンタルヘルス外来の立ち上げ、退院後の訪問活動など、様々な場で母性看護スペシャリストとしての役割を發揮しています。

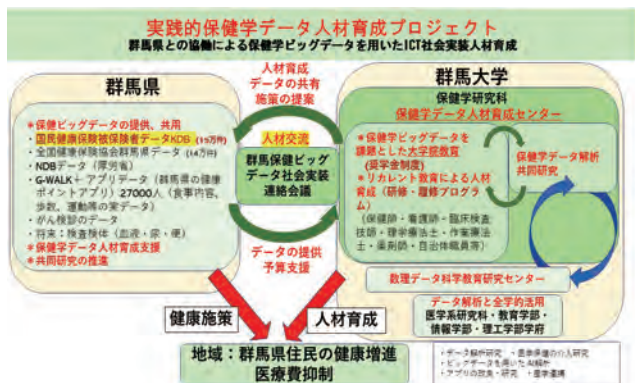


専門職養成プログラム

高度専門医療職を目指す学生は、専門看護師（CNS）の他に、実践的保健学データ人材や臨床研究コーディネーター（CRC） 管理者養成コース、地域・大学院循環型保健学リーダーの育成プログラムを受講することができます。

実践的保健学データ人材育成プロジェクト

「データ分析力×専門職」で、データ分析ができる、社会に貢献する「スーパー医療職人材」の育成



保健学研究科は、群馬県と協働して保健学ビッグデータを用いた ICT 社会実装人材育成を行うことになりました。群馬県から保健に関するデータの提供と予算の支援を受けて、保健学ビッグデータを活用した大学院教育を行います。奨学金制度を作り、プロジェクト課題に月額 5 万～20 万円の支援を行います。保健学ビッグデータとして国民健康保険被保険者データ KDB (15 万件) を扱うことができます。

データサイエンスとは、データを用いて科学的に社会に有益な知見を引き出すアプローチのことです。保健の分野では、医療・介護・検診・食事などのビッグデータを解析し、住民の健康増進や予防医学に貢献することが求められていますが、十分な活用ができておりません。

我々の目指すは、「データ分析力×専門職」で、データ分析ができる、社会に貢献する「スーパー医療職の人材育成」です。大学院教育では、保健学研究科と数理データ科学教育研究センターと共同で行います。実践的な保健学データを用いた日本初の人材育成の試みです。

臨床研究コーディネーター（CRC） 管理者養成コース

臨床研究の高度な知識と実践力を持つ「臨床研究プロフェッショナル」を育成



新しい治療法や予防法を確立するための科学的根拠は、臨床試験をはじめとした臨床研究から得られます。

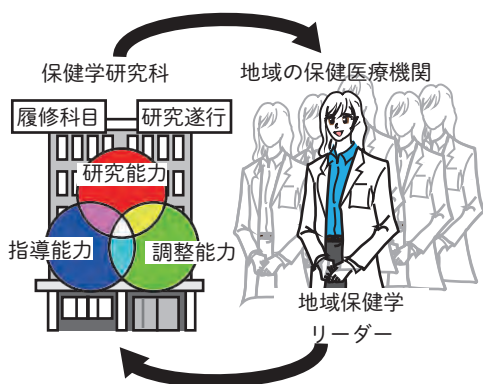
臨床研究の中核拠点となっている世界の研究医療機関では、臨床研究コーディネーター（CRC）やデータマネージャー（DM）と呼ばれる専門職が活躍して、臨床試験や疫学研究が進められています。質の高い研究を行うには、これら専門職のなかでも高度な知識やスキルを身につけた人材を欠かすことができません。しかし、わが国ではこれらの指導的人材を育てられる教育機関はごくわずかです。

群馬大学大学院保健学研究科では、2001 年の大学院設置当初から、臨床研究専門職の指導者養成のための講義や演習を行ってきました。また、臨床研究中核病院などと連携して実践的な演習を含む「CRC 管理者養成コース」を開講しています。コース履修者には、「臨床研究プロフェッショナル（臨プロ）」の称号が与えられます。

2022 年 3 月までに、16 名がコースを修了し、臨床研究プロフェッショナルの称号が授与されています。

地域・大学院循環型保健学リーダーの育成プログラム

地域保健学研究プロジェクトを基盤として、働きながら職場で研究ができる環境を提供します



これまでの教育を発展させ、さらなる地域活動と教育との一体化を目指した新しい大学院教育プログラム「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」を構築し、2007 年から 3 年間文部科学省大学院教育改革支援プログラム（大学院 GP）の支援を受けました。2010 年度以降も教育プログラムとして継続しています。具体的には、地域の保健医療従事者を社会人学生として受け入れ、所属機関における研究課題を、所属機関と大学との共同で「地域保健学研究プロジェクト」として遂行します。学生はこの課程を通して、研究能力やリーダーとしての能力を体験的に修得し、大学院修了後は「地域保健学リーダー」として、地域保健医療活動の推進や、大学との協働の促進における役割を果たすことが期待されます。2021 年度までに 46 名の学生が本プロジェクトの研究遂行者として認定を受け地域社会で活躍しています。

博士後期課程の特徴

博士後期課程では、基礎、応用、地域・国際の3教育研究分野によって縦に構成された看護学領域、生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域の3つの領域から構成されており、各領域の教育研究分野において、それぞれ独自の学問体系を確立するための独創的な教育・研究を進めると同時に、それぞれの領域間を有機的に結びつける学際的な研究を展開することができるよう工夫されています。

◎ 共通コア科目では、教育・研究に必要な原理・方法、国際保健医療推進に必要な能力を修得すると同時に、医学・保健学領域の最先端の情報を得ることで、これからの保健医療・福祉の実践、教育研究の進むべき方向について学修します。

◎ 専門教育科目では、教育研究分野に即した最新の保健医療・福祉に関する情報を修得するとともに 教育・研究の現状と問題点の把握、独創性の高い研究論文精読を通して研究の着眼点や展開法を学修します。

◎ 特別研究では、それぞれの領域で独創性の高い研究を進めるために必要な研究計画、研究方法、研究結果の解読力及び考察力を養い、与えられた課題について、学生自らが博士号に相応しい研究論文を完成させ、国内外の学会で発表するよう指導します。

看護学領域	生体情報検査科学領域	リハビリテーション学領域
基礎看護学分野	基礎生体情報検査科学分野	基礎リハビリテーション学分野
応用看護学分野	応用生体情報検査科学分野	応用リハビリテーション学分野
地域・国際看護学分野	地域・国際生体情報検査科学分野	地域・国際リハビリテーション学分野

教育ポリシー

1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

- 1 保健医療・福祉分野で、独創的あるいは学際的な研究が実践できる人
- 2 保健医療・福祉分野で、高度な教育が実践できる人
- 3 保健学の高度な専門知識と技術を有し、保健医療・福祉分野での指導者となる人
- 4 国際的な保健医療・福祉分野で、指導や教育及び研究が実践できる人

<入学者に求める能力・資質>

- 1 博士前期課程レベルの保健医療・福祉に関する専門知識と研究経験を有している人
- 2 グローバルな視点で研究を推進し、その成果を広く発信するために必要なコミュニケーション能力、語学力を有している人
- 3 保健医療・福祉等の分野で研究者、教育者又は高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人

2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育の目標>

- 1 保健医療・福祉分野で、独創的あるいは学際的な研究を実践できる能力を育成する教育
- 2 保健医療・福祉分野で、高度な教育を実践できる能力を育成する教育
- 3 保健学の高度な専門知識と技術を有し、保健医療・福祉分野の指導者を育成する教育
- 4 国際的な保健医療・福祉分野で、指導や教育・研究が実践できる能力を育成する教育

3 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の条件>

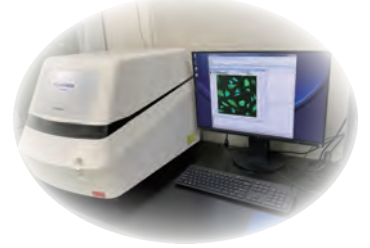
- 1 所定の年限を在籍し、かつ、博士後期課程に定められた単位を修得した者
- 2 学部及び大学院保健学専攻博士前期課程における教育・研究を通して得られた保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、独創的あるいは学際的な研究を進め、博士後期課程論文（博士論文）を作成し、今後も意欲的に研究活動を進めることができる者
- 3 幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身に付けた者

博士後期課程各領域の特色



看護学領域（基礎看護学分野／応用看護学分野／地域・国際看護学分野）

看護学領域の特色は、看護学の Key Concepts である「人間」「生活」「環境」「健康」「看護」を中核におき、個人・家族・集団・地域を対象に、健康の維持増進、疾病とともに生きる力、健康生活障害からの回復、個人・家族・集団のエンパワメントや組織力を高める課題を取り上げ、看護活動の成果を示すことである。また、現代社会は、慢性病（生活習慣病を含む）・がん罹患者や認知症者の増加、少子高齢社会、ストレス関連疾患の増大、在宅療養者の増加、医療の高度化・多様化、グローバル化の加速、ICTの進歩がある。それゆえ看護学領域の使命は、ストレス緩和と健康生活の維持のためセルフケア能力を高める支援、疾病と共に歩む人々の QOL を高める支援、在宅療養者・高齢者・小児とその介護者や養育者への支援、周産期母子看護、地域や海外で展開される保健医療活動の支援についての課題を探求し、未知の現象の解明、新しい看護実践の技術、ケアシステムを開発することである。手法としては自然科学的アプローチと人間学的アプローチを用いる。また、多職種と連携する保健医療福祉活動において自らの専門性を発揮するとともに、多職種間のマネジメント、調整、相談、教育に能力を発揮し、協働的研究に参画できる高度実践看護専門職を養成する。



生体情報検査科学領域

（基礎生体情報検査科学分野／応用生体情報検査科学分野／地域・国際生体情報検査科学分野）

本領域では、高度・先端医療の進展に伴って必要とされる個としての生体からの精密な情報収集のために、分子、細胞、組織、機能など広範な情報解析を目的とした教育・研究を行い、新たな解析技術開発能力を養成する。生体情報検査科学領域の学問体系を確立するとともに、新たな検査技術の開発及び医療機器や医薬品の開発に参画する。病態生理及びその解析技術、超音波検査などの新しい画像解析診断技術の開発応用に関しては代表的な生活習慣病である血管・循環系の疾病等を対象とし、その検査法とその応用法について研究する。続いて、生体に生じる種々な疾病による組織学的・細胞学的変化や血液細胞の形態・動態の変化を免疫組織化学的及び分子生物学的な最先端の技法を用いて解析し、疾病の解明に応用する能力や新しい検査技術開発のための研究をする。そして、病理学的検査・細胞学的検査、血液学的検査に精通した専門的知識と能力の養成を行う。さらに、新興・再興感染症等と生体防御機構との関わりや病原生物の特殊検査法開発等の教育・研究を行う。また、環境保健の情報から得られた様々な研究成果に基づき、国際・地域の保健対策と評価を実践できる専門職の養成を目指す。更に、開発途上国の国際感染症等の新検査法についての研究や保健対策を実施できる能力を養成する。



リハビリテーション学分野

（基礎リハビリテーション学分野／応用リハビリテーション学分野／地域・国際リハビリテーション学分野）

リハビリテーション学で対象とする障害について ICF（国際生活機能分類）は、身体・精神的機能、身体運動や身体・精神的活動、社会生活への参加・適応に関する問題として分類し、さらに個人因子・環境因子といった背景因子の影響をあげている。リハビリテーション学は、これらの問題分析や基礎・応用的介入理論と技術の開発、地域及び社会環境の分析と対応といった包括的な科学としての特色を持つ。また、リハビリテーション学の特性から、保健医療・福祉に関わる専門職者を積極的に受け入れ、学際的な研究・教育者を養成することを特色とする。

所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

④ 食健康科学教育研究センター兼任

*2024年3月31日退職予定、**2025年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Nursing !



看護学領域

基礎保健学ユニット：基礎看護学分野

●小澤 厚志・教授；E-mail ozawaa@

- ① 医療面接における遺伝情報管理に関する研究
- ② 遺伝性疾患患者・家族のマネージメントに関する研究
- ③ 慢性疾患患者の長期管理に関する研究

●上星 浩子・教授；E-mail hiroko-jo@

- ① 看護介入における効果の検証
- ② 看護師の臨床判断に関する研究
- ③ 看護教育に関する研究
- ④ 慢性疾患をもつ患者の経験と思いに関する研究

○恩幣 宏美・准教授；E-mail sanaki@

- ① 多様性のある看護職のキャリア発達に関する研究
- ② 看護職の生産性向上につながる職場環境・労務管理に関する研究
- ③ 病棟看護師の退院支援の能力向上に対する継続教育の研究

・中村 美香・講師

看護師の医療安全や自律性に関する研究 等

・柳 奈津子・講師

安楽・安寧に関するケアの効果の検証

・櫻井 一江・助教

- ① 看護職の職業的アイデンティティに関する研究
- ② 人工透析医療に関する人類学的研究



応用保健学ユニット：応用看護学分野

●大山 良雄・教授；E-mail ohyamay@

- ① 糖尿病に関する研究（予防、治療、療養指導など）
- ② 慢性疾患の栄養管理に関する研究
- ③ 慢性疾患のトータルマネージメントに関する研究

●岡 美智代・教授 ④食；E-mail michiyooka@

URL: <https://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/>

- ① 生活習慣病を中心とした慢性病患者におけるセルフマネジメントに関する研究
- ② 慢性病患者のケアに関するエビデンスや費用対効果に関する研究
- ③ 患者教育に関する研究
- ④ 慢性病看護の専門性ならびに慢性疾患看護専門看護師の役割の研究



●金泉 志保美・教授；E-mail kanaizumi@

- ① 慢性疾患や障害をもつ子どもの在宅ケアに関する研究
- ② 子どもの退院支援に関する研究
- ③ 入院中の子どもの日常生活や発達を支援するための研究

●近藤 浩子・教授；E-mail hirokok@

- ① コミュニケーション技術に関する研究
- ② 精神看護の実践に関する研究
- ③ メンタルヘルスおよびセルフコンパッションに関する研究
- ④ 精神障害をもつ人のリカバリーに関する研究

所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

④ 食健康科学教育研究センター兼任

*2024年3月31日退職予定、**2025年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Nursing !



看護学領域

応用保健学ユニット：応用看護学分野

●近藤 由香・教授；E-mail yukondo@

- ① がん患者の症状緩和に関する研究
- ② がん患者のリラクゼーション法に関する研究
- ③ がん患者や家族の緩和ケアの開発に関する研究

●篠崎 博光・教授；E-mail h_shinozaki@

- ① 禁煙支援に関する研究
- ② ウィメンズ・ヘルスならびに周産期医療に関する研究
- ③ 周産期医療における人材育成に関する研究
- ④ 栄養管理・栄養支援に関する研究

○國清 恭子・准教授；E-mail kunikiyo@

- ① 周産期のメンタルヘルスに関する研究
- ② 助産ケアの開発に関する研究
- ③ 助産師の教育に関する研究

○牧野 孝俊・准教授；E-mail tmakino@

- ① 父親の育児に関する研究
- ② 慢性疾患患児のストレスに関する研究
- ③ 多職種連携による看護の有効性向上に関する研究

・高橋 さつき・講師

- ① 慢性腎臓病の患者教育普及にむけた研究
- ② ICTを活用した患者教育・セルフマネジメントツールの開発等

・京田 亜由美・助教

終末期がん患者・家族へのケア等

・齋藤 明香・助教

- ① セミオープンシステムに関する研究
- ② 高年妊産婦に関する研究

・佐藤 亜紀・助教

看護師のメンタルヘルスに関する研究

・瀬沼 麻衣子・助教

がん患者のQOLや治療選択に関する研究等

・塚越 徳子・助教

がんと認知症を併せ持つ患者への看護支援の研究等

・深澤 友子・助教

周産期の母親のメンタルヘルスに関する研究

・松本 光寛・助教 ④

慢性疾患の看護に関する研究



所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

④食健康科学教育研究センター兼任

*2024年3月31日退職予定、**2025年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address :@以下に gunma-u.ac.jp

Nursing !



看護学領域

地域・国際保健学ユニット：地域・国際看護学分野

●牛久保 美津子・教授 ; E-mail ushi2@

- ① アドバンスケアプランニングに関する研究
- ② 退院支援・地域連携に関する研究
- ③ 在宅療養支援に関する研究
- ④ 非がん療養者の緩和ケアに関する研究

●内田 陽子・教授 ; E-mail yuchida@

URL: <http://bpsd.jp/>

- ① 高齢者ケアのアウトカムを基盤とした評価システムの開発（認知症ケア、EOLC、包括的 BPSD ケアシステム® 等）
- ② 地域住民に対する EOLC の意思決定とアウトカムを高めるケア
- ③ 老年看護学のエビデンスと工学を融合した研究



●大庭 志野・教授 ④食 ; E-mail oba@

- ① 生活習慣病のリスクに影響を及ぼす曝露要因の疫学研究
- ② 国際的な比較検討に資する集団のための尺度開発の研究
- ③ リスク因子の知識と疾病予防行動の研究

●佐藤 由美・教授 ; E-mail satoy@

- ① 自治体における保健師の活動方法と評価に関する研究
- ② 保健師の専門能力、人材育成に関する研究
- ③ 地域におけるケアマネジメント、ケアシステム構築に関する研究



○石川 麻衣・准教授 ; E-mail mishikaw@

- ① 行政保健師の機能・役割および活動の特質に関する研究
- ② 健康づくりの展開方法に関する研究
- ③ 地域における健康危機管理に関する研究

○伊東 美緒・准教授 ; E-mail mioito@

URL: <http://bpsd.jp/>

- ① 認知症症状を軽減するためのケア方法に関する研究
- ② 認知症症状を軽減するための生活環境に関する研究
- ③ 認知症症状を軽減するための研修方法の開発



○辻村 弘美・准教授 ; E-mail tujimura@

- ① 在日外国人を対象とした健康やヘルスリテラシーに関する研究
- ② 文化や地域性を考慮した看護ケアや対象理解に関する研究
- ③ 途上国を対象とした看護技術や看護教育に関する研究

・梨木 恵実子・助教

訪問看護、呼吸器疾患やエンドオブライフケアの在宅高齢者に関する研究

・堀田 かおり・助教

地域における高齢者の健康づくりへの支援に関する研究

・松井 理恵・助教

家族や地域での子育て支援等



所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

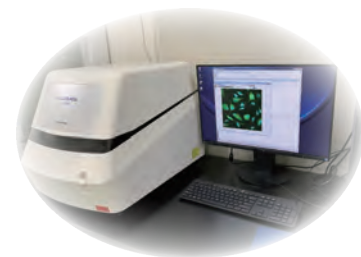
・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

④ 食健康科学教育研究センター兼任

*2024年3月31日退職予定、**2025年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp



生体情報検査科学領域

基礎保健学ユニット：基礎生体情報検査科学分野

●大西 浩史・教授；E-mail ohnishih@

URL: <https://biosignal.dept.med.gunma-u.ac.jp/>

- ① 脳内免疫システムについての研究
- ② 細胞のストレス応答機構についての研究
- ③ 脳老化メカニズムについての研究

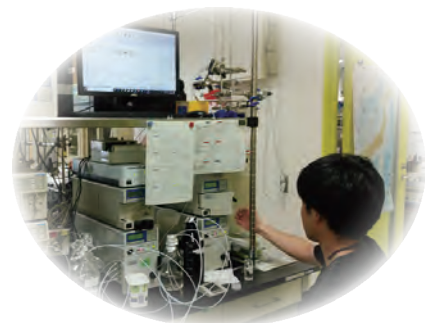


●*奥石 一郎・教授 ④；E-mail koshiishi_i@

- ① 細胞内変性オルガネラ除去機構における脂質過酸化の役割に関する研究
- ② 活性酸素種・活性窒素種・活性イオウ分子種によるホメオスタシス調節機構に関する研究
- ③ 間葉系細胞の老化に関する研究

●柴田 孝之・准教授 ④；E-mail tshibata@

- ① 抗がん剤の副作用を回避する投与前検査法の創生
- ② 機能性蛍光色素の合成と細胞イメージングへの応用
- ③ 生体成分の高感度検出法の開発
- ④ 化学修飾を施した人工核酸の設計・合成および生物学的評価



応用保健学ユニット：応用生体情報検査科学分野

●齊尾 征直・教授；E-mail saio@

URL: <https://health-pathology.health.gunma-u.ac.jp/>

- ① 細胞診断学における各種細胞所見の包括的理解のための病理・細胞形態学的研究
- ② 核構造・形態の変化に影響を及ぼす因子についての細胞生物学的研究
- ③ 病理組織の各種染色の定量性における画像解析の応用法の研究



●齋藤 貴之・教授；E-mail tsaitoh@

URL: <http://ketsuken-gunma.kenkyukai.jp/special/index.asp?id=16646>

- ① 血液疾患・腫瘍の分子生物学的研究
- ② DNA 修復の研究
- ③ 群馬県と協働した保健学データの解析



●中村 和裕・教授；E-mail knakamur@

神経変性疾患の治療法開発

●**横山 知行・教授；E-mail tyokoyama@

URL: <http://heart.health.gunma-u.ac.jp/>

- ① 肥満、遊離脂肪酸による不全心、動脈硬化進展機序の解明
- ② 遊離脂肪酸による呼吸器疾患進展機序の解明
- ③ FABP など脂肪酸代謝にかかわる因子と心疾患、動脈硬化に関する研究



所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

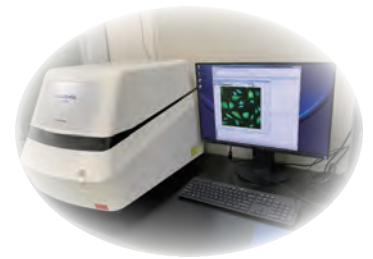
③ 食健康科学教育研究センター兼任

*2024年3月31日退職予定、**2025年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Laboratory
Sciences!



生体情報検査科学領域

応用保健学ユニット：応用生体情報検査科学分野

○松井 弘樹・准教授 ③; E-mail hmatsui@

URL: <http://heart.health.gunma-u.ac.jp/>

- ① 脂肪酸の質的制御による疾患予防・治療へ向けた研究
- ② 心肥大、動脈硬化、肺気腫モデル動物を用いた病態解析
- ③ 生理機能検査を用いた循環器疾患のリスク解析



・西島 良美・講師

婦人科病変の早期発見、早期診断への貢献を目指す研究

・笠松 哲光・助教

血液疾患の病態解明等

・後藤 七海・助教

急性骨髄性白血病や多発性骨髄腫等の血液疾患の病態解明

・小林 さやか・助教

組織および細胞診検体を対象とした、癌細胞の核の形状変化に関する研究および画像解析に関する研究

・土岐 明子・助教

糖尿病に関連する凝集体タンパクや肥満に関連する分子の研究

地域・国際保健学ユニット：地域・国際生体情報検査科学分野

○豊村 暁・准教授; E-mail toyomura@

- ① 脳波（EEG）および磁気共鳴画像法（MRI）を用いたヒトの脳に関する神経科学研究
- ② 吃音の神経メカニズムに関する研究
- ③ 発話や上肢、下肢の運動制御に関する研究

○松本 竹久・准教授 ③; E-mail tmatumoto@

- ① Bacterial small-colony variants (SCVs) に関する研究
- ② ヒトに感染する難培養性微生物の発育に関する研究
- ③ 臨床微生物におけるβ-ラクタマーゼに関する研究

・鬼塚 陽子・助教

ヒトと寄生虫との相互作用に関する研究



所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

④ 食健康科学教育研究センター兼任

*2024年3月31日退職予定、**2025年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Physical
Therapy !



リハビリテーション学領域（理学療法学）

基礎保健学ユニット：基礎リハビリテーション学分野

●**白田 滋・教授；E-mail susuda@

- ① 機能的制限に対する理学療法に関する研究
- ② 障害構造の分析に関する研究
- ③ 臨床的評価指標の開発に関する研究
- ④ 神経系障害に対する理学療法の効果に関する研究

●久田 剛志・教授 ④；E-mail hisadat@

- ① 呼気ガス分析による炎症性呼吸器疾患の病態解析と呼吸リハビリテーションの効果の評価に関する研究
- ② 呼吸器疾患に対するリハビリテーションの効果についての生理学的評価
- ③ 炎症性呼吸器疾患に対する ω 3系脂肪酸由来脂質メディエーターの作用に関する研究

●山路 雄彦・准教授；E-mail tyamaji@

- ① 身体各所から発生する生体信号を解析し、臨床応用する研究
- ② 基本的動作を人間工学的に解明する研究
- ③ スポーツ活動などの研究
- ④ 地域包括ケアシステムに関する研究

・上宮 英之・講師

節足動物がどのように進化してきたのか等

・朝倉 智之・助教

三次元動作解析等、基礎的研究



応用保健学ユニット：応用リハビリテーション学分野

●田鹿 毅・教授；E-mail tajika@

- ① 運動器疾患における超音波運動器評価研究
- ② 運動器疾患の疫学調査（発症危険因子の検討）研究
- ③ 運動器疾患における理学療法介入に関する多角的評価研究

・佐藤 江奈・助教

変形性股関節症の装具療法による身体機能への影響に関する研究

・中澤 理恵・助教

成長期（特に中学生年代）のスポーツ傷害予防に関する研究等

地域・国際保健学ユニット：地域・国際リハビリテーション学分野

●山上 徹也・准教授；E-mail yamagami@

URL: <https://brainreha.jimdofree.com/>

- ① 認知症高齢者のリハビリテーションに関する研究
- ② 介護予防（集団・個別介入、評価、地域作り）に関する研究
- ③ 地域におけるリハビリテーション（訪問、通所、施設）に関する研究
- ④ 物・人的環境と対象者の生活機能発揮に関する研究



所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

*2024年3月31日退職予定、**2025年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下に gunma-u.ac.jp

Occupational
Therapy !



リハビリテーション学領域（作業療法学）

基礎保健学ユニット：基礎リハビリテーション学分野

●李 範爽・教授；E-mail leebumsuk@

- ① 加速度計や圧センサー、Actiwatch などを用いた上肢機能の運動学的解析
- ② 中枢神経障害に対する作業療法の評価、効果検証
- ③ 視空間認知機能障害に対する作業療法の評価、効果検証
- ④ Actiwatch などを用いた身体活動量や生活リズム、睡眠の定量的評価

●三井 真一・教授；E-mail smitsui@

URL: <https://mitsuilab.health.gunma-u.ac.jp/>

- ① 異性間の絆による精神神経疾患の予防・回復効果に関する生物学的研究
- ② 精神発達障害に関わる脳内プロテアーゼの機能に関する研究
- ③ 家族の絆がリハビリテーションに与える効果に関する生物学的研究



・田中 浩二・准教授

高齢者を対象とした作業療法とチームアプローチに関する研究

・野口 直人・助教

頸椎症や脊椎疾患による物品の把持やリーチ動作などの上肢の運動学的特性に関する研究

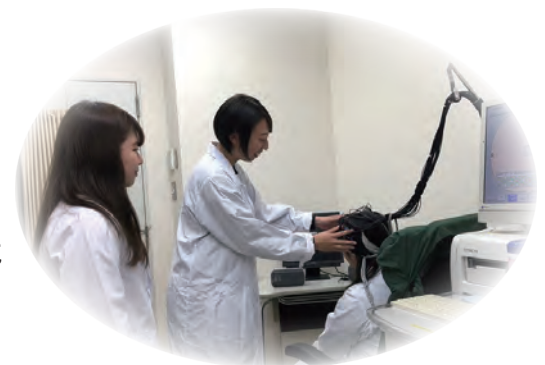
応用保健学ユニット：応用リハビリテーション学分野

●平尾 一樹・准教授；E-mail kazuki.hirao@

- ① 閾値下うつ病に対する介入方法の開発に関する研究
- ② 精神疾患を有する人々に対する作業療法の効果に関する研究
- ③ 精神病様体験に関連する要因の同定に関する研究

・下田 佳央莉・助教

- ① Mirror Neuron System の賦活が認知機能に与える影響についての研究
- ② がんのリハビリテーションの効果についての研究



地域・国際保健学ユニット：地域・国際リハビリテーション学分野

●菊地 千一郎・教授；E-mail senichiro@

近赤外線スペクトロスコピーを用いた健常人及び精神疾患における認知機能研究

・川島 智幸・准教授

World Englishes（世界の様々な英語）の授業への応用、教材開発、教育的効果など

・十枝 はるか・講師

発達障害の2次障害の予防につながる早期支援の在り方に関する研究

・秋山 稜登・助教

- ① 定量的指標を用いた上肢機能と視覚機能の分析
- ② 運動・感覚・認知プロセスと日常生活活動との関連性の調査

 @Gundai_OT



 gundai_ot

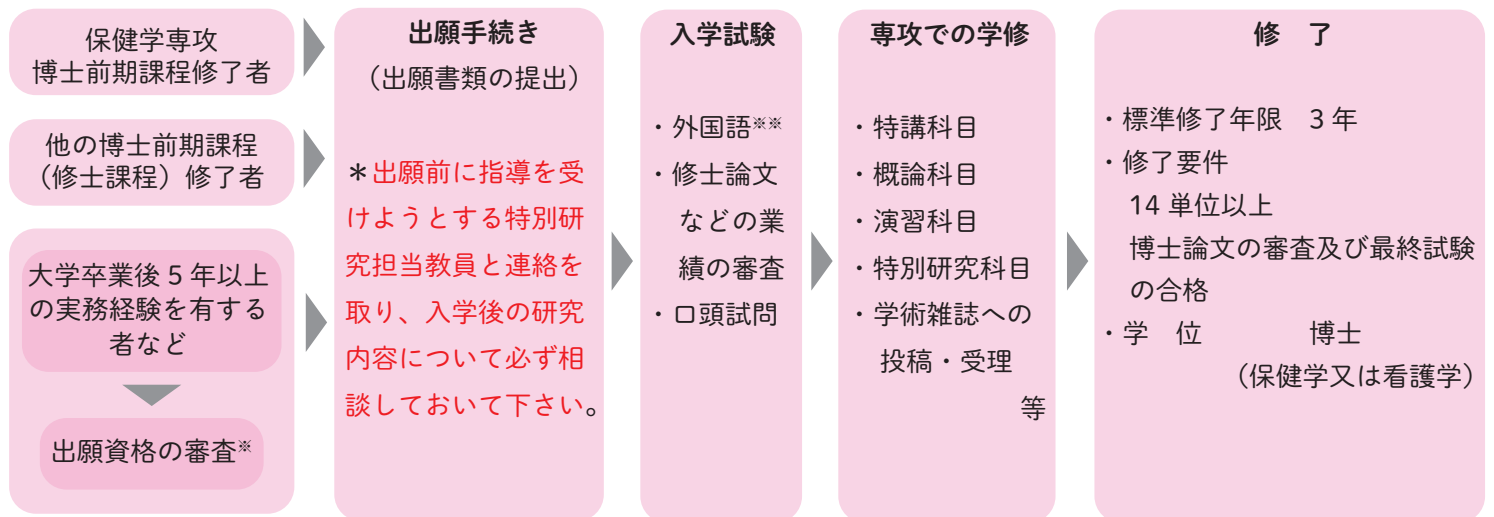


出願から修了までのプロセス

保健学専攻博士前期課程



保健学専攻博士後期課程



※出願資格及び学力試験の詳細は「学生募集要項」をご覧ください。

※※出願時に TOEFL-PBT(Paper Based Test)、TOEFL-iBT(internet Based Test)、TOEFL iBT® Home Edition、TOEIC Listening & Reading Test(公開テスト)、又は IELTS(Academic Module) のいずれか1つのスコアの提出をもって、外国語(英語)の筆記試験に代えることができます。TOEFL-ITP Institutional Testing Program、TOEFL ITP Plus for China のスコアも TOEFL-PBT のスコアに準じて評価対象とします。詳しくは、「学生募集要項」をご確認下さい。

修学支援・教育支援・修了後の進路

修学のための支援

1. 入学料免除・徴収猶予及び授業料免除・徴収猶予
特別な事情により学費の納入が著しく困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の全額若しくは半額を免除する制度があります。また、所定の納期までに、入学料又は授業料の納入が困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の徴収を一定期間猶予することがあります。
2. 奨学金紹介
本学では、日本学生支援機構等による奨学金制度の申請を受け付けています。
3. ティーチング・アシスタント（T A）及びリサーチ・アシスタント（R A）
大学院生に実習等の教育補助業務に従事してもらい、これに対する手当支給により、経済的な支援を行う制度です。主に博士前期課程ではT A、博士後期課程ではR Aとして採用します。

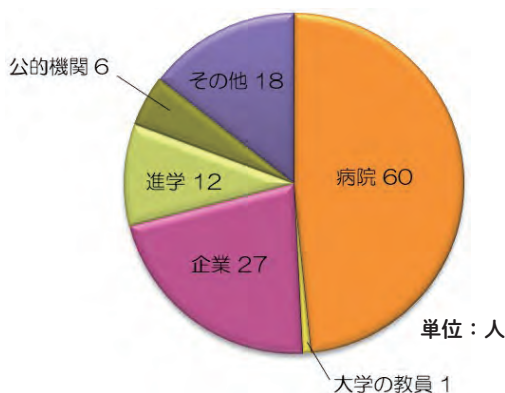
社会人のための教育支援

保健学専攻では保健学研究科設置以前より、職業等を有しながら修学を希望する志願者の学習需要に積極的に対応するため、社会人入試を実施するとともに、長期履修学生制度、昼夜開講制、土日の集中講義による授業を行うことで、職場を辞することなく修了要件を満たし、学位が取得できる教育・研究指導を実施してきました。その結果、2021年度博士前期課程では全学生の37%、博士後期課程では75%が主に地域の医療・保健機関で就労している社会人という特徴を有しています。さらに社会人学生の教育支援を行うため、2007年度より「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」プログラムによる地域保健学研究プロジェクトを実施しています。

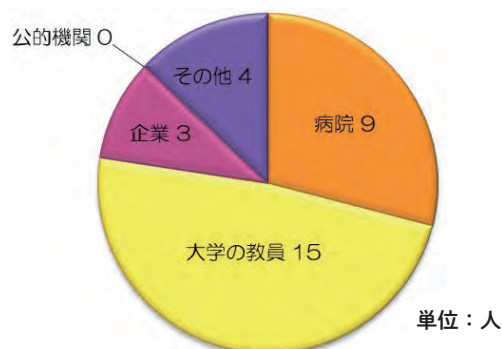
1. 昼夜開講制、土日の集中講義
開講時間は、昼間：8：50～17：50、夜間：18：00～21：10で土・日曜日にも授業を行うことがあります。ただし、科目によっては土・日曜日は、昼間開講のみになる場合があります。
2. 長期履修学生制度
職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）で修了することが困難な場合、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了する制度です。長期履修学生期間の授業料年額は、規程の授業料年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期履修学生として許可された在学年数で除した額となります。
3. オンラインによる遠隔講義
終業後に大学へ登校することなく、自宅や職場で授業を受けられるようにオンラインでの授業を拡充させてあります。

修了後の進路

博士前期課程及び博士後期課程修了後（在学中に就業しているものも含まれます）は、保健医療・福祉の教育機関（大学、短期大学など）、医療・福祉機関（群馬大学医学部附属病院、公立病院など）、地域保健・行政機関（群馬県、各市町村など）、民間企業の研究開発部門、医療関連コーディネーター（CRCなど）などに多く就職しています。



2019～2021年度、博士前期課程修了者の進路



2019～2021年度、博士後期課程修了者の進路

入試日程・募集人員

2023 年度入試日程

2022 年

～7月1日（金）

- ・出願資格審査締切（該当者）
（審査結果は2022年7月25日までに通知します）
- ・外国人留学生用試験申込締切

7月15日（金）

）

- ・検定料*取扱（納付）期間 * 検定料 ¥30,000

8月2日（火）午後3時

7月27日（水）

）

- ・出願受付期間（必着）

8月2日（火）

9月4日（日）

- ・試験実施日

10月4日（火）

- ・合格者発表

※必ず学生募集要項をご確認ください。

募集人員

博士前期課程

専攻	ユニット	募集人員
保健学専攻	基礎保健学ユニット	50名
	応用保健学ユニット	
	地域・国際保健学ユニット	

<入学者選抜の基本方針>

小論文と外国語の学力試験及び口頭試問の結果、並びに志願者が提出した成績証明書及び希望する研究の概要等の出願書類を総合して判定します。また、一般入試のほかに社会人入試及び留学生入試を実施しています。

博士後期課程

専攻	領域	募集人員
保健学専攻	看護学領域	10名
	生体情報検査科学領域	
	リハビリテーション学領域	

<入学者選抜の基本方針>

学力試験（外国語（英語））、修士課程修了時の提出論文を含む業績又は第一著者として発表した学術論文を含む業績、口頭試問及び学業成績により総合して判定します。また、口頭試問では個別に専門知識及び研究能力に関する試問を行います。

アクセス・問合せ

アクセス



[前橋駅から]

- ・ 渋川駅（小児医療センター）行きバス乗車→群大病院入口下車（約 13 分）徒歩 6 分
- ・ 群大病院行きバス乗車→群大病院下車（約 15 分）

[渋川駅から]

- 前橋駅行きバス乗車→群大病院入り口下車（約 30 分）徒歩 6 分

問合せ

群馬大学昭和地区事務部学務課入学試験係

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-22

TEL: 027-220-7797 E-mail: kk-mgakumu5★jimu.gunma-u.ac.jp (★ → @)

※ 特別研究担当教員のプロフィールや研究内容の詳細は群馬大学大学院保健学研究科・医学部保健学科のホームページ (<http://www.health.gunma-u.ac.jp>) をご覧ください。



群馬大学大学院保健学研究科では、Twitter による情報発信も行っています。

 @HealthGu





群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

群馬大学大学院保健学研究科
保健学専攻